

第1回 旧菓子文化会館等再整備基本構想検討懇話会 議事概要

【開催概要】

日時：令和7年6月2日（月）16：30～18：00

場所：金沢市役所第二本庁舎 2階 2203会議室

【議事要旨】

（1）座長選任

事務局から、金沢工業大学教授の宮下委員の座長選任を提案し、全会一致で承認

（2）意見交換発言要旨

<宮下座長>

- ・尾張町は、金沢の顔となるべき場所であり、県庁所在地の中心市街地にありながら、各時代の素晴らしい金沢町家を残しているのは非常にまれで、近代的な建物も共存することで独特な雰囲気を出している。さらに、生業を持つ様々な商店があり、特徴的な場所となっている。
- ・下新町は、また異なる雰囲気があり、尾張町とは高度地区の制限も異なる中で、それぞれに特徴がある。

<山田委員>

- ・尾張町は、かつて賑わっていたが、香林坊に繁華街が移り変わり、賑わいが薄れていった。しかし、北陸新幹線開業後は観光客が増加し、活気を取り戻しつつある。
- ・浅野川近辺は金沢らしいまちなみと人柄が魅力で、奥ゆかしい人が多いと感じている。
- ・旧菓子文化会館は気軽に利用できる佇まいではないと感じており、一方、泉鏡花記念館は狭く老朽化が進んでいるが、泉鏡花への関心は高く、企画展も盛んに行われている。
- ・国道159号から新町・鏡花通りへ通り抜けもでき、木の文化都市・金沢の重点区域でもあることから、木を活かしたランドマークとなる建物を希望する。
- ・単なる観光案内所ではなく、伝統工芸の職人による実演など、金沢らしい体験ができるとよい。
- ・学生が短時間でも過ごせるようなスペースがあればよい。

<外山委員>

- ・尾張町には、現代の商業に流されない落ち着いた上品な雰囲気を持つ商店街が残っているのでネオン街にはなってほしくなく、落ち着いた雰囲気を持つ施設ができるとよい。

<深谷委員>

- ・オーバーツーリズムが課題であり、近江町市場とひがし茶屋街の間に位置する尾張町には、休憩機能が必要である。
- ・尾張町の街並みは素敵だが、観光客にあまり知られていないことが少し残念。
- ・回遊性の視点でも重要な場所であり、周辺の観光地や文化施設へ誘導していくことが重要。
- ・カフェのように楽しめる場所があれば観光拠点になりえる。

- ・ 泉鏡花記念館で、金沢の歴史文化資産を保存するためにも収蔵庫の整備が重要。
- ・ 卯辰山で伝統工芸を学ぶ若手作家の作品発表の場となれば、金沢らしさが出るのではないか。

<東委員>

- ・ 大人の観光客が楽しめるまちだと感じるので、大人を意識した再整備がよい。
- ・ 泉鏡花記念館は建物構造上狭く、使い勝手が悪い。
収蔵庫は、数年内にいっぱいになると思われ、近隣文化施設の収蔵スペースも不足しているので、再整備ではこれらの収蔵スペースの確保や収蔵品を見せる工夫もあわせて検討してほしい。

<細川委員>

- ・ 尾張町界限は若者からすると立ち寄る機会が少ない。
- ・ 若者はインスタ映えする場所や情報収集ができる場所、人との繋がりが持てる場所を重要視する。
- ・ 金沢のことを知らない、魅力を感じていない学生たちをターゲットにした情報発信の場として活用できたらよい。
- ・ 金沢は気候が不安定で、雨の日でも楽しめる施設があればニーズが高い。
- ・ 尾張町ならではの商品を開発することで、尾張町の魅力を発信できる。

<西本委員>

- ・ 泉鏡花に関する資料をアーカイブして継承してだけでなく、発信していく方法を検討する必要がある。
- ・ 歴史文化を現代の感覚で再解釈した体験型イベントによる交流促進も考えられる。
- ・ 地元の方も観光客も気軽に入れるような空間が良い。

<宮下座長>

- ・ 尾張町は、観光客だけでなく地元の人たちに愛され、自慢できる場所となるべきである。
- ・ 金沢は加賀藩から続く町民の文化レベルが高く、尾張町界限がこの文化を下支えしていることをうまく形で見せる施設になれば、地元の人たちの誇りにもなる。

<外山委員>

- ・ 庇が深く出ている、ちょっと薄暗いといった建物のイメージであり、木と土を使った新しい建物ができればよい。

<宮下座長>

- ・ 金沢という気候と文化的な歴史を踏まえ、木の良さや深い庇などの木の建築構成がデザインとしてうまく表現され、令和の時代だからこそできる金沢らしい建築物として、これまでの文化の延長線上に乗せられると素晴らしい。

<東委員>

- ・ 観光客だけでなく、住民も気軽に立ち寄れる休憩スペースであり、さらに交流もできるとよい。

- ・ 泉鏡花記念館の入口を国道159号側にも配置できたら、もっとたくさんの方に来館していただけたと思う。周辺の観光地、文化施設を紹介するような場所があるとよい。

<宮下座長>

- ・ 昔の資料に芝居小屋や寄席の写真があり、尾張町は実はかなり楽しい雰囲気のところだったのではないかと思う。町民文化を活かし、観光客も地元の方も賑わう施設もあり得るのではないか。

<山田委員>

- ・ 昔は有名な演者さんが金沢で何日も通しで寄席に出ていた。
- ・ 泉鏡花記念館では婦系図を映像作品として流してもよいかと思う。
- ・ 再整備した施設は少なくとも20時くらいまでは開館してほしい。

<宮下座長>

- ・ 尾張町で食事をし、お酒を飲む前に立ち寄るとすると、夜も利用できる施設であってほしい。

<深谷委員>

- ・ 知的好奇心の深い欧米からの観光客に対して、地域の文化を実演を交えて紹介する場があるとよい。また、英語案内も必要である。

<宮下座長>

- ・ 表層だけではなく、本質や雰囲気も含めてまち全体が体験になるとすごく素晴らしいし、金沢はそれができるまちである。
- ・ お茶文化はお茶をやる人だけではなく、お菓子や茶道具、着物などの文化が全部残っているから成り立つ。尾張町には、これらの文化がしっかりと商業としても生業としても残っているのので、文化体験はいい発信になる。

<細川委員>

- ・ 主計町や橋場町は、歩くにつれてどんどんまちの雰囲気や世界観が移り変わっていく。
- ・ 尾張町界限は地元住民が大切にしているまちだと感じるので、地元住民の憩いの空間であり、また、インバウンドの方とも交流できる新しい場にもなりえる。

<西本委員>

- ・ 体験や交流の場にすることを考えると、多目的なスペースが必要であり、キッチン機能、もしくはホール機能など、多くの人が集まるような空間や、金沢市の歴史や文化のアーカイブコーナーなどがあるとよい。

<外山委員>

- ・ 施設毎の収蔵庫ではなく大きい収蔵庫で管理するほうが効率的である。国宝級の作品なども貸出してもらえるよう、管理がいきとどく大きな収蔵庫があるとよい。

<西本委員>

- ・既存の泉鏡花記念館の建物について今後どうするか検討してもよいのでは。

<宮下座長>

- ・泉鏡花記念館は生家跡地であり、現建物は泉鏡花記念館として建てられたものではないので、鏡花の作品や説明を伝えられるものとしてきちんと整備すべきだと思う。
- ・旧菓子文化会館と泉鏡花記念館の敷地で高度地区の制限が異なることをデザインに活かすことは面白い課題であり、国道159号側の賑やかさと新町・鏡花通りの非常に静かで小さなスケール感を2面性として上手くデザインできればいいと思う。

<西本委員>

- ・泉鏡花記念館の既存町家を保存することは難しいということを前提に整備していくのか。

<宮下座長>

- ・保存が可能なのか、それとも施設規模や施設の安全性も含めて難しいのか。

<事務局>

- ・建物は、非常に老朽化が進んでおり、手狭である一方、市としてこまちなみ保存も進めている。
- ・再整備では施設に必要な機能を一旦取りまとめたうえで、どのような整備や工夫ができるか検討していきたい。

<外山委員>

- ・泉鏡花記念館の地盤はかなり不安定であり、改良には時間や費用がかかるが、現建物は費用をかけても保存してもらいたいと思う。
- ・新たな記念館は土足で入るのではなく、靴を脱いで上がるのが日本の文化だということを感じる施設にしてほしい。
- ・泉鏡花記念館は国道159号に面していない奥ゆかしさがあるが、この建物を少しだけ国道側に見せることで観光客に対して何の建物だろうと思わせる雰囲気があるとよい。

<宮下座長>

- ・奥にある秘めたる美しさみたいなものも一つの風情や格式であり、このような風情やスケール感を新たな泉鏡花記念館に残す必要がある。
- ・建物自体の耐震性に問題がないか、安全性を一度検討する必要がある。
- ・当該地は、地域の回遊性においても拠点になるべき場所であり、地元や観光客を包括するような施設となるべきである。
- ・尾張町界限ならではのまちの雰囲気や文化の集積を表現し、体験も含めて発信できればよい。

以上